

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京丹波町立蒲生野中学校 】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	京丹波町立蒲生野中学校 第1学年 47名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①保健体育 ②総合的な学習の時間
4 目標 (ねらい)	スポーツへの関わり方には「すること」「見ること」に加えて「知ること」「支えること」という視点がある。障害者スポーツの歴史やパラリンピックの多様性を「知ること」、障害者スポーツを「支えること」を通して、スポーツの価値への理解を深める。
5 取組内容	<p>(1) 《夏休みから9月10日》 体育科より、オリンピック・パラリンピックをTVやWEBで視聴し、観戦レポートを書くことを夏休みの課題として取り組んだ。【見ること・知ること】</p> <p>(2) 《9月下旬》 障害者スポーツに関するアンケート</p> <p>(3) 《10月5日》 京都障害者スポーツ振興会事務局長中村芳道氏による講演と、京都ボッチャ協会のみなさんによるボッチャの指導・体験。 【知ること・すること】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">講演会の様子</p>

	 <p style="text-align: center;">ボッチャ体験</p> <p>(4)《実施できなかったもの》  ①地元の丹波自然運動公園で実施される「障害者スポーツの集い」「スポーツレクリエーションフェスティバル」への大会支援の取組【支えること】  ②京丹波町で行う障害者スポーツイベントの企画を考える。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) コロナ禍において、自国で開催される東京オリンピック・パラリンピックについて、課題を通して興味関心を広げた。ボッチャ競技については、杉村英孝さんが金メダルであったこともあり、より高い関心をもって競技に取り組むことができた。</p> <p>(2) 講演によって、障害者スポーツの歴史や知識に加えて、これからは「何か手伝うことができますか？」と声をかけてみるといった、障害のある人や困っている人に対して、何に困っているかを分かろうとする視点の大切さを学ぶことができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 東京オリンピック・パラリンピックの期間に、保健体育科と協働してレポート課題に取り組み、スポーツへの興味関心を広げ、それをふまえた講演・体験を通してその興味関心を深めさせた。</p> <p>(2) 障害者スポーツは、日々の教育活動との親和性が高いと判断してパラリンピック・障害者スポーツに重点を置いた取組を行った。</p> <p>(3) 地元である丹波自然運動公園で実施される障害者スポーツのイベントに着目して計画を立てた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>(1) コロナ禍の影響で、地元の丹波自然運動公園で実施される大会等に、直接参加することができなかった。スポーツを「支えること」についての体験が実施できず、興味関心を継続した実践へとつなげることができなかった。</p> <p>(2) 大会会場の整備や準備・片付けのボランティア活動など、イベントに対して、間接的に関わる取組を模索する必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>丹波自然運動公園が、校区にあるという利点を活かして、障害者スポーツ大会へのボランティア活動などを、地域学習をリンクさせて来年度以降の取組を考えていきたい。</p>

# 京都新聞

10月7日

木曜日

京都新聞社  
The Kyoto Shinbun Co., Ltd.

発行所 〒604-8577  
京都市中京区烏丸通美川上ル



## ポッチャ「奥が深い」

京丹波・蒲生野中で体験授業

東京ハラスポーツだ。の正式種目として注目を集めた「ポッチャ」の体験授業が、京丹波町蒲生の蒲生野中で開かれた。1年生が赤や青の球を投じて、ポッチャの奥深さを学んだ。

スポーツ庁のオリパ教育推進事業の一環。京都障害者スポーツ振興会や京都ポッチャ協会などから4人を講師として招いた。ポッチャは、白い目

標球に向かってチーム別に赤と青の球を投げ、目標球に近づけられるかを競い合う。障害の有無や性別、年齢を問わず、誰でも楽しめるのが特徴。

5日の授業は、47人が参加。投げた球で相手の球をはいたり、目標球に近づけたりすると「やった」と歓声を上げ、ゲームを楽しんだ。松崎泰さん(13)は「力加減が難しく、意外と奥が深い」と分かったのが楽しかったと笑顔を見せた。

同会の中村孝通事務局長(64)は「ポッチャを通して、障害のある人との関わり方を考えるきっかけになつたらうれしい」と話した。

(佐々木千寿)

白い目標球めがけて赤い球を投げる生徒  
(京丹波町蒲生野中)